

令和3(2021)年度 業務の実績に対する評価結果の反映状況の公表について

令和3(2021)年度 業務の実績に対する評価結果の反映状況は以下のとおりです。

【価値目標】：県が法人に期待する目標（＝中期目標）
【実現目標】：価値目標を達成するために法人が目指すべき目標・評価指標

分野	令和3(2021)年度計画	実現目標 (2021年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
地域貢献(教育)	【価値目標】 医師・看護師・保健師の県内定着				
	<p>へき地の実情や行政活動の課題等を理解するため、実際にへき地を訪れて実習する「へき地体験実習」を引き続き実施する。</p> <p>「奈良県公衆衛生看護学実習調整会議」において、県内保健師の地域別の需給を明確にするとともに、公衆衛生看護学実習の内容充実を図る。</p>	<p>看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加 (第3期期間平均6人)</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「へき地体験実習」が中止となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「公衆衛生看護学実習」の実習施設が限定され十分な実習ができなかった。</p> <p>看護学科卒業生の保健師県内就業者数は第3期期間平均4.3人となり、目標(第3期期間平均6名)を達成できなかった。</p>	<p>令和2年度から令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた「へき地実習」を再開させた。</p> <p>保健師課程選抜試験の志願者に進路希望を記載させるとともに、定期的に進路希望を調査し状況を把握した。</p> <p>保健所での実習や県・市町村合同の採用説明会が開催できておらず、県内で働くイメージを学生が持ちづらい状況であるため、「奈良県公衆衛生看護学実習調整会議」で実習や説明会の再開の検討について働きかけを行った。</p> <p>新卒の採用がない市町村もあり、看護師を経験後、保健師として就職する者も少なくないが、これまで既卒者の県内就職者数の把握が十分でなかったため、本学既卒者の保健師県内就職者数の把握に努めた。</p>	<p>引き続き県内施設での実習や求人情報の提供等、保健師採用試験の受験及び県内就業を促進するための取組みを行うこととした。</p>

分野	令和3(2021)年度計画	実現目標 (2021年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
	「看護技術項目到達度チェックリスト」の到達度を向上させるため、令和2年度に実施した分析結果に基づき、実習内容の見直しを行う。	「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 ③看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上 平均90%以上	「看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均」は、実施対象者(4年生)が令和2年度、令和3年度の2ヶ年新型コロナウイルス感染症の影響により、病院実習が十分実施出来なかったことなどにより低下し(76.4%)、目標(平均90%以上)を達成できなかった。 なお、看護技術実習の不足が、就職後の離職等に繋がること懸念されたため、フォローアップとして希望者を対象に注射の準備やバイタルサインの測定等の技術演習を行った。	令和3年度は希望者のみを対象としていた卒業前演習について、対象を4年生全員に拡大するとともに、到達度が低かった技術項目を抽出し、「経管栄養の手順、PEGの管理」、「高齢者の食事、排泄、清潔」の演習を導入しフォローアップを行った。	「看護技術項目到達度チェックリスト」の到達度を向上させるため、前年度に実施した分析結果に基づき、実習のみでは修得しづらい項目について「演習内容」の見直しを行うこととした。
【価値目標】 県内基幹病院としての機能の充実					
診療	認定看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供、体験型研修を行う。	認定看護師等の増加 9人	認定看護師の資格取得者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、1名の受講希望者がいたが休講(新生児集中ケア)となったこと、感染状況により県外研修施設への積極的な受講の働きかけができなかったことなどから第3期期間累計4人となり、目標(第3期期間累計9人)に達していない。	認定看護師の体験型研修の実施や後進育成を推進するために現認定看護師が進路決定した際の気持ちや状況を語ったPR動画を作成し、オンデマンド配信するなど、認定看護師に関心をもつ看護師を増加させるための取組を行った。 全看護師対象に認定看護師に対する関心度についてアンケート調査を実施した。	認定看護師の資格取得者を増加させるため面談時に意向を確認し適任者の発掘を行うこととした。 認定看護師に対する関心を高めるため、引き続き体験型研修の実施や認定看護師からの情報提供を行うこととした。

分野	令和3(2021)年度計画	実現目標 (2021年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和4(2022)年度	令和5(2023)年度
	【価値目標】医療費適正化の推進とそれを支える費用構造改革の徹底による持続可能な経営基盤の確立				
法人運営	後発医薬品の使用割合を80%に増加させるため、各診療科と調整し、院内全体で取り組む。	後発医薬品の使用割合(数量ベース)の増加80%	後発医薬品の使用割合 80%の達成に向け、39品目の切替を実施しようとしたが、後発医薬品メーカー2社が業務停止命令を受けた影響で、その他の後発品メーカーの製品に過剰に注文が入り出荷制限がかかったため、切替ができず、使用割合77%であった。	出荷制限の状況が非常に厳しいながらも、従来の取り組みに加えて今年度から院内プロジェクトの重点取組項目として挙げ、各診療科医師が参加する会議において後発医薬品への切替促進に向け周知を行った。 各診療科と調整し、43品目の切替を行った。	後発医薬品の使用割合について80%を維持するため、引き続き各診療科と調整し、院内全体で取り組むこととした。